

令和元年度 第2回総合教育会議議事概要

日 時：令和元年12月20日（金） 午後3時00分 ～ 午後4時30分

場 所：名張市役所2階 庁議室

出席者：名張市長 亀井利克

名張市教育委員会 教育長 上島和久、委員 瀧永善樹、委員 川原尚子、
委員 辻愛、委員 丸下純一

《事務局》

総括監 手島左千夫、総合企画政策室 室長 田中克広、総合企画係長 梶本哲生、
教育委員会事務局 教育次長 高嶋正広、
教育総務室 室長 大西哲、参事 森永美紀子、教育総務係長 金森國康、
学校教育室 室長 山村浩由、教育センター センター長 山崎博史、
文化生涯学習室長 宮前浩幸
総務部 行財政改革推進担当監兼財政経営室長 田中浩之

○市長あいさつ

皆さん、こんにちは。月の流れは早いものであと10日もすれば年の瀬を迎えます。忙しい季節を迎えた中で第2回の総合教育会議を開催させて頂きました。お繰り合わせ頂き、ご出席頂きました委員の皆様方にお礼を申し上げます。また、日頃からも名張市教育の充実のためにご尽瘁いただき、重ねてお礼申し上げます。川原委員が任期満了を迎えていらっしゃる訳でございますが、今日、午前中に議会があり、引き続きお願いしたいという旨で提案をさせて頂き、全会一致でご承認を頂きました。川原委員には引き続きご指導賜りますようお願い申し上げます。

平成15年から名張市は地域共生社会に向けての市民の皆さんと共に進めてきました。国の方でも、平成28年に地域共生社会実現本部の制度を立ち上げられました。それから政府の方々、或いは大学の研究機関の方々が本市にお越しになる訳でございますけれども、最近ではNHKの特集でも取り上げられる所となって参りました。外国からもお越しになります。5月には韓国から8名の自治体の方がお越しになりました。この12月の11、12、13の3日間、WHO（世界保健機関）がご視察にお越しになった訳でございます。お越しになった方々は、公衆衛生学の関係の方々でございますけれども、名張市の取り組みに非常に感銘を受けられ、WHOでは高齢化に向けてのアクションプログラムを策定するとのことであります。その中でも名張の取組は非常にユニークで、これを参考にしたいという事でございます。これから社会学の担当の方もお越しになられるという事で、加盟国も連れて来られるとおっしゃって頂いています。「何でもウエルカムですよ」と申し上げている所でございます。今来て下さった方々に百合が丘の小学校をご視察頂きました。「地域と学校との信頼関係が築かれてきたら、こんな事も出来ていくのか」、「地域の方が学校へ入って、教師の補助員として活動されるとこんな事が出来るのか」、「素晴らしい事だ」と評価を頂いた所でございます。我々も大きな誇りとさせて頂いていますが、これを全市的に広げていかなければならないと思っている訳でございます。来年は東京オリンピックとパラリンピックの年です。4月に聖火がやって来ます。名張にも来て頂きます。赤目滝も走るコースです。水源都市名張と言うその魅力を発信出来る聖火リレーにしていきたいなと思っています。パラリンピックは8月に聖火が来ますけど、共生社会と言うものを発信して行ければと思っています。その翌年がいよいよ三重とこわか国体があります。名張

市で5競技を担当させて頂く訳ですが、これも成功に向けてこれからも努力を致してまいらなければならないと思っております。引き続きのご指導、ご支援、ご協力を賜りますようによろしくお願いを申し上げます。今日は2項目についてご審議を頂きます。予定が4時30分までございまして、最後までよろしくお願いしたいと思います。

1. 名張市の財政状況等について

(事務局 説明)

(市長)

これまで常に経常収支比率が99.7ぐらいの所で何とかやり繰りをして来たという事です。私が市長にさせていただいたのが平成14年で、武道交流館についても、「こんな規模のものは必要ない」ということで地域にお願いに行ったのですが、地域としては、「下水道の最終処理施設の条件として市から言ってきたものだ」という事で変更する事は出来ませんでした。これを造るについては一般の補助だけではいけないので、防災センターに認定してもらって、国交省の支援もいただきながら建てたという事です。最も大きかったのは開発公社で40億の借金がありました。これをいくらか処分して15億ぐらいにして取り組みましたが、いずれは支払って、処理しないとイケません。それと中央西土地区画整備事業で40億も取り込んで、今処理をしています。開発公社が令和9年で完済します。土地区画整備事業についての起債が令和7年で完済するまでになっています。そして病院です。200床の病院で162億をかけています。これは150億が借金、返済金が22億で、令和8年でほぼ完済する所まで来ている状況です。公共下水道につきましても、今ある最終処分施設で、ミックス事業と言っていました、今その準備を進めている所でございます。これはあまり広げ過ぎたら大変な事になりますので、コンパクトにそこでやって行くような事を進めてもらっています。そんな中で、どうしてもしなければならなかったのは学校の耐震の工事です。また、授業中にしんどくなる子がたくさんいるといけませんので、学校の空調整備もやって行かざるを得ないということで整備しています。今度は、1人1台タブレット、1人1台パソコン、これをまたどうしていくのかという事になります。中学校給食もあります、これを併行してどっちもやっていけるのか、選択して行かざるを得ないのか、今、これが政治判断を迫られている所です。そういう事もご理解を頂きたいなと思っております。何かご質問はございませんか。

(教育委員)

先程のお話のとおり、令和7、8、9、10年に大きな債務を完済すれば、財政状況は、少し楽になりますか。

(市長)

今、社会保障費が上がってきています。名張は全国平均より高齢化率が早く進んでいます。それは何故かと言いますと、名張市の元の人口が3万人でしたが、8万を超える人口になりました。その方々がもう既に退職されており、これから一挙に高齢化が進みます。そこに社会保障費がたくさん必要になるという状況になります。ただ健康づくりは一所懸命やっていかないとイケないということで取り組んでおり、全国平均より健康な方が多いという事は確かですけれども、これは私が市長になってから、大変な事になると考え、共生社会も含めて一所懸命に取り組んできました。そういう状況の中、少し楽になるってことが言えるかどうかは、まだ分かりません。施設への投資もあ

りますし、使わない施設で統廃合が出来るものは出来るだけやっていきたいと思っています。

病院につきましても、急性期、臓器別の病院が名張市内にはないので、市立病院でやらざるを得ませんでした。この部門で黒字になっている病院はありません。急性期、臓器別をやりながら、採算の帳尻をどうやって合わせているかという、民間では高齢者を対象とした地域包括ケア病棟でされています。市立病院は今、病床が200あるが、稼働数が170になる事はもうないです。ですから、高齢者の方が多くなってきたので、地域包括ケア病棟をやって行きます。そこで急性期でお受けした方をそこも利用してもらおう。そこには2ヶ月入れます。それを4月1日からそれをスタートしようと思っています。これをかなりのスピード感を持ってやっていかないといけないので、これから1、2年の間で私はかなりの事をやって行きたいと思っています。これはまだ第1弾です。第2弾も今少しずつ進めています。もうやって行かざるを得ない状況です。病院の事業会計に13、14億を繰り入れしている訳です。こういう時でないと、通常の時では出来ないという事もあります。ピンチのようですけれども、その裏にもものすごいチャンスがあることがあります。それだけ思いきった事も色々やっていけるのではないかと考えています。

(教育委員)

先程、下水道関係の事業費で非常に多額になる事が予想されるとご説明頂きました。私もそのように拝察しており、各市町村、また県では、国の指導のもとで計画を数年前から進めておられるかと存じます。名張市でもこのことは、もう既に計画を立てて、公表して頂いているのでしょうか。また、隠れ負債と言う事で、当市の財政の状況についてのバランスシートと言いましょうか、市職員の方々の将来の退職金についての負債ですけれども、退職給付について、その金額の見積りはどの程度、正確性を持った金額で見積もっておられ、どこかに公表されているのでしょうか。

(事務局)

昨年、平成28年度の決算から新たな地方公会計制度と言う国の示した基準に基づいて試算をさせて頂いております。退職手当引当金にあたるような部分につきましても、現在、在職をしている職員については、非常に高い精度を持って試算をさせて頂いております。今、数字が私の手元にございませぬのでお示し出来ませんが、それはホームページで公表させて頂いております。

(市長)

今、そういった情報は全てオープンにしています。負債を市本体に取り込んで処理をしてきました。職員の数を30%削り、662人いた一般行政職を460人ぐらいにしました。それくらい減らさないと負債を取り込めない状況でした。ただし、消防職などの現場を持っている所を減らす訳にはいかなかったため、一般行政職を減らしました。これからも改革に次ぐ改革をやって行きます。

耐震や空調にかかる事業費は、半端ない額ですが、人命にかかわることなので、やらざるを得ないことです。さらに、他市では、みんなタブレットを1人に1台ずつ持っているのに、名張の子はまだ5人に1人とかいう事になってきても、直接教育にかかわる問題になるので困ります。

名張において、財政状況が厳しい理由のもう一つにあるのは、市町村合併が出来なかったということがあります。これで交付税が減っています。合併した自治体はそれだけの交付税が保障されています。また、合併した市では、職員の数はどんどん減っています。津市は10ぐらいの自治体が合併してその分の交付税がある上、職員の数をどんどん減らして、今では旧の津市ぐらいの数になってきているのではないかと思います。しかし、市民の皆さんが理解を持って、頑張ってくれてい

ることについては、合併するかしないかの住民投票したことは、良かったのかなと思っています。「合併しないと大変になる」と財政のことについて、説明会に100回以上行って話をさせてもらったのですが、合併反対が7割という結果になりました。前の市長の時には、財政が良いと言っていたのに、それが急にこんなにいけなくなる訳がないと声もありましたが、それでもやらざるを得ないということで、市民の皆さんも、みんなで頑張っていこうという思いになられた事も確かだと思っています。ですからこの共生社会が出来てきたということもあると思っています。

2. 教育行政の進捗状況について

(事務局 説明)

(市長)

今のこの報告で何かご質問やご意見がございましたらお願いします。

(教育委員)

生涯学習センターの役割については、非常に期待したりする所です。人的資本というところで、名張市では、これまでもコミュニティ・スクールの充実など、今取り組んでいるところを発展させるような形で充実させるようなセンターが出来ることは、非常に良く、効果的だと拝察します。出来れば箱物というようなイメージでなくて、ソフト、取り組み的な活動をプログラムとして充実して頂けるよう、教育委員会を中心に各部局が協力して頂いて、若い人達が集えるような仕組みづくりと言うか、若い人達がどうやったら集まれるかと言うようなものも、色々アイデアを出してやって頂けたらと思います。そのマーケティングのところも、併せてしっかりとやって頂けたらと思います。

(市長)

はい。おっしゃる通りで、集まって来ない方に対するアプローチって言うのは非常に重要ですが、その辺りのことをどのように考えているか、事務方の方で何かありますか。

(事務局)

現段階において、集まって来ない人達をどうするかということについては、具体的なことは決まっておられません。

(教育長)

今の課題について、子どもの数が減ってきているのに、不登校や長欠の子どもが増えてきています。不登校の子ども数は、現在70名前後ですが、長欠の子どもを入れますとその数は2.5倍から3倍になってきます。これは大きな問題であり、大人になって、そのまま引きこもりになってしまったりする事を避けなければならないので、早い段階で対応して、将来の働く力と結び付けなければなりません。そこら辺をどうしていくかというのが非常に大事な事です。最近、さくら教室、適応指導教室の子どもが増えてきました。個別指導で1対1の対応が必要な子が増えてきており、非常に苦慮しているところで、人がそれだけ必要になってきています。個別の対応から集団の指導の中に入っていけるように取り組んでいる所でもありますけども、次の段階として、中学校、その後高校へ進学出来る体制を取っていかなければなりません。それを繋がっていく為に、私は発展的に、コ

コミュニティ・スクールの中で地域の方、或いは関係する公務員の方にも手伝っていただいでやっています。やってくる事を早い段階で計画的にやらないと段々と先送りになってしまうと思います。また、外国人も増えてきています。その子も見えないといけない。さらには特別な支援を要する子どもも非常に増えてきており、特別支援学級がどんどん増えています。通常学級に在籍させておいて、自校通級が出来る通級指導教室というものを広げて行くということを名張小学校がモデル校としてもう7年、8年やっています。通級出来るような体制を作っていくようにして、名張市の数の多い学校はもう全て特別支援学級とともに通級指導教室も動かしていかなければならないという事を今、県に働きかけています。課題を抱えている子どもが大きくなって10年先、20年先どうなっていくのかという事を見据えてやる為にも大変大事になってきます。当然、学校として教育委員会も大事ですけども、そういう実態をきちっと皆さんにもお伝えしながら協力出来る事はしてもらいような体制、その為にも地域福祉教育総合支援システムの制度を上手く利用して、やってくる行かなければならないと思っています。

(市長)

いずれにしても、寄り添い伴走型でやってくる行かないといけない。原因は何かという事を調査していかなければならないので、自宅に引きこもっている方のところにAIのモニター付きのロボットを置いて、話をするような事をしながら、色んなケースがありますけどもやってくる行きたいと思っています。非常にきめ細やかな対応、対策をして行かざるを得ないような事だと思っています。

(教育委員)

市の財政が非常に難しく、大変な状況だと思いました。そんな中で、学校の施設を大事だとして頂いていることを非常にありがたく、嬉しく思っています。もう一つ生涯学習センターの事で色々と思うのですが、最近の若いものは裕福になったのか、群れるという事がなくなっています。PTAの会合で自分の子どもの参観の時だけは来るけども、あとの話し合いや学級懇談になれば、学級委員とのお友達だけになってしまうような状況です。その辺のところは、もう個人主義になってしまっているのかなと思います。それを何とかする方法は、もっと魅力のあるものを作らないといけないのかなと思うのですが、群れてこう楽しむというのがなくなり、大変な時代になったと思います。生涯学習センターについても、その辺のことも挑戦しながら、やってくる行かないと名張の明日はないのではないかと思いますのでよろしく願いいたします。

(市長)

それが世界の傾向で、名張の共生社会でも、そのところがすごく注目されています。国もこれをやってくる行かざるを得ないと思います。みんなそれぞれに役割を持ってもらい、それでやってもらうというやり方です。

(教育委員)

核家族化が進み、家庭環境が変わり、朝食を毎日食べていない家庭が増えています。朝食を食べないのであれば、せめて中学校給食でしっかりと栄養のあるものを食べてくれたら、成長に繋がるのではないかなと思います。中学校給食について引き続きご検討をよろしく願いいたします。

(教育委員)

財政が非常に厳しいというのは良く認識致しました。非常に大切なことは、これからの未来の子ども達の事で、教育、公共施設の整備等、優先順位もあると思うのですが、教育にかかわる財源は出来る限り確保して頂くことをよろしくお願いいたします。

(市長)

「子育てや教育は名張で」という事で名張を選んで頂いている若い方が増えてきています。是が非でも、これからも選んで頂けるまちにして行かなければならないと考えています。

(教育長)

先日、名張カレッジの修了式がございました。今年は、71名の参加で、修了証書を渡したのが51名、その内で皆出席が21名ございました。今年は特に非常に熱心に毎回受講していただき、上野先生の能楽の話もあり、「お年を重ねても学習意欲が旺盛で名張市の方はすごい」と上野先生におっしゃっていただきました。受講された人の中には、「是非、我々が勉強した事をどこかで使いたい」、「子ども達の為に学習している」、「大人も知らない事が多いから、そういう学ぶ機会をもっと作って欲しい」、「出来ればその全部か一部でもお手伝い出来たらさせてもらいたい」とこんな話がありました。そこらを有効に使っていく事も手かなと思っています。

(教育委員)

教育ビジョンの精緻な情報の公開と進捗状況の報告を毎年して頂いている事が非常に素晴らしい事だと存じます。また今回の全国学力・学習調査の関係でも非常に成果が出ている事は、名張市の小中学校の先生、また関係者の方々が非常に努力なさっておられるからだと確信しています。財政のこの厳しい中、今後の増税とか、将来の負債を担える若い人達を育てていかなければならないということは、現実問題として、是非とも早いうちから会計教育を取り入れて頂いて、まちの事に興味を持っていただき、こういう財政負担の中でも、自分たちは実は恵まれた環境にあるのだという自負心を子どもたちが持ち、協調・享受の精神を高めていただく事が豊かな人間性の醸成に繋がるのではないかなと思います。是非とも、ご検討頂ければと思います。

(亀井市長)

ありがとうございます。忖度させて頂いて、市政に反映して行きたいと思います。

(事務局)

今年度の総合教育会議も昨年度同様、年3回の開催を予定させて頂いております。3回目の会議を年明け3月頃に予定をしております。また後日、日程調整をさせて頂き、会議の事項が決まり次第、ご案内を申し上げます。どうぞよろしくお願いいたします。

(市長)

大変ご多繁の中、長時間に渡りまして熱心にご審議を頂きましてありがとうございます。